

# 栄養通信

第18号

栄養管理は「日進月歩」。今回は最近当院で使用したサンプルで効果的な成果が出た食品について（導入に向けての願いも込めて！？）お話したいと思います。

## ① グルタミンF（侵襲期の味方！早期投与で腸の免疫アップ&腸内環境を整える）

「グルタミンF」には「グルタミンと食物繊維」が含まれています。

「グルタミン＝小腸のエネルギー源」「ファイバー＝腸内細菌の餌となり、腸内環境を整える」という役割ですが、当院ですでに使用している「GFO（第2号参照）」と似た食品になります。

1包あたり	グルタミンF	GFO
エネルギー	80kcal	36kcal
グルタミン	10g	3g
食物繊維の種類	グァーガム分解物 5g	ポリデキストロース 5g（グァーガム分解物少量含有）
オリゴ糖	なし	あり



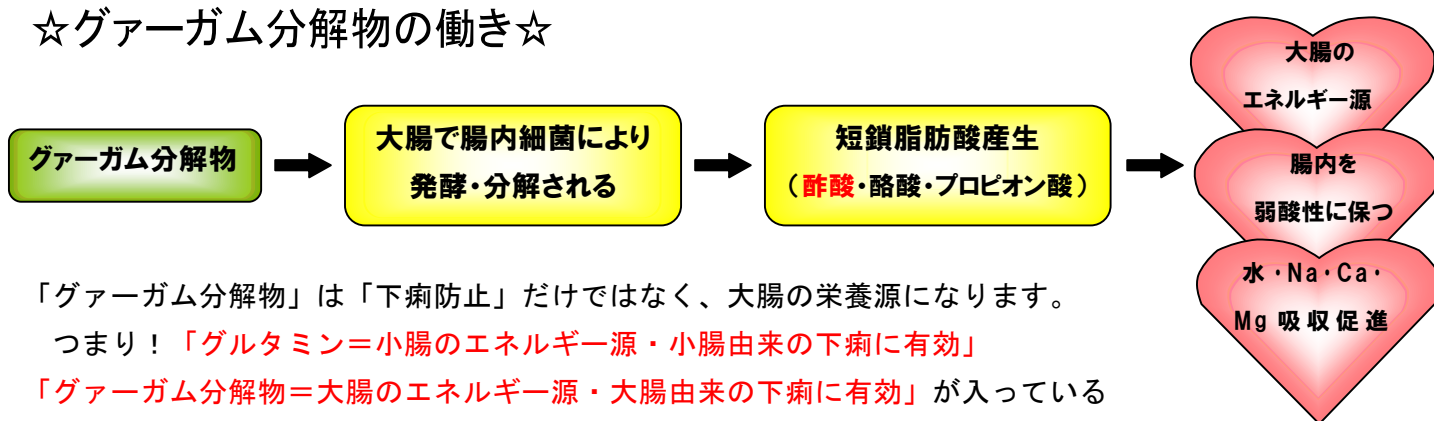
\*グルタミンFには「ビタミンA・C・E」「Zn・Cr・Se」も含まれています。

では、「グルタミンF」と「GFO」との違いは何なのか！？

上記で見ると、グルタミンの量は「グルタミンF 1包＝GFO 3包」となります。

そして、注目なのは「食物繊維の種類」。「グァーガム分解物（インド地方のグァー豆から抽出）」はESPENでは「経腸栄養が引き起こす下痢の防止」という目的で推奨度Aと評価されました。

## ☆グァーガム分解物の働き☆



「グァーガム分解物」は「下痢防止」だけではなく、大腸の栄養源になります。

つまり！「グルタミン＝小腸のエネルギー源・小腸由来の下痢に有効」

「グァーガム分解物＝大腸のエネルギー源・大腸由来の下痢に有効」が入っている

「グルタミンF」は一石四鳥とも言えます。実際に各病棟で「長期絶食」「CDトキシン」

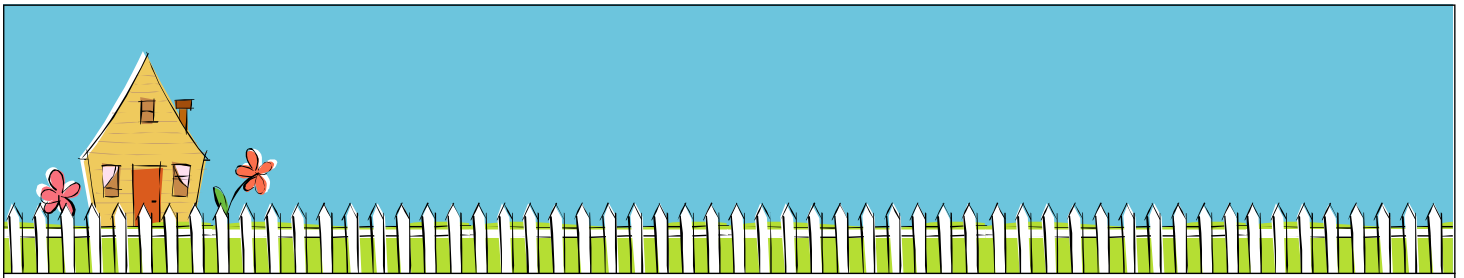
「下痢」に対して成果が出ました。現在「GFO」から「グルタミンF」への移行に向けて検討しています。

使用方法：「長期絶食」の場合、1～2日間使用してから経管栄養開始。

経管栄養開始時や開始後に下痢が続いている際も併用して使用可能。

（推奨量「0.3～0.5g/体重kg/日」→50kgとして1日に15g～25g：2～3包）

グルタミンF 1包につき「白湯100～200cc」に溶かして飲用もしくは経管投与。



## ② サンファイバー（便秘・下痢にまずはこれ！）

「サンファイバー」は「グルタミンF」で登場した「グァーガム分解物」の粉末です。下痢に対する効果は早いですが、便秘に対する効果は1～2週間程かかりました。グァーガム分解物の働きには腸内環境の改善以外にも「肝臓での脂質合成を抑制」や「血糖値の上昇抑制」「炎症性サイトカインの抑制」等があります。

使用方法：1日に1～2包を飲み物や料理に混ぜる&経管投与（白湯100cc）。



## ③ ビフィズス菌末（ビヒダスヨーグルト約6個分のビフィズス菌）

「ビフィズス菌BB536」には1包に「**生きたビフィズス菌が500億個以上**」入っています。これは、スーパーでよく見かける「ビヒダスヨーグルト（同じ菌）」約6個分のビフィズス菌量です。

便秘にも下痢にも有効で個人購入しているスタッフも！？

使用方法：1日に1～3包を飲料・ヨーグルトに混ぜる&白湯に溶かして経管投与（食後がお勧め）



## ④ G-fine（「サンファイバー」+「ビフィズス菌末」＝「G-fine」）

「G-fine」には1包で「**ビフィズス菌50億個**」「**グァーガム分解物5g**」が含まれており、**これぞ「最強」の腸内環境メンテナンス食品！**水にサッと溶けて美味しいのも特徴です♪

当院で採用されている「ビオフェルミンR（抗生剤使用時）＝1gにつき耐性乳酸菌が1億個」

「ビオスリー（抗生剤使用時は不可）＝1gにつき乳酸菌2億個・酪酸菌5千万個・糖化菌5千万個」と1日量を考慮してもG-fineのビフィズス菌量はとても多く、

グァーガム分解物が下痢に対して有用な働きをするため、

抗生剤の使用やCDトキシンで腸内環境が乱れたときは強い味方です。

**実際、当院でもCDトキシンで抗生剤使用出来ずに絶食となった症例に対して**

**使用しましたが、3週間でCD検査陰性になりました。JSPENでの症例報告や**

**抗生剤との併用で全症例ほぼ改善出来たという報告もあり、今後ますます目が離せなくなる存在です！**

使用方法：1日に下痢で2包（10日間）、便秘で1包（5日間）を経口&経管投与（白湯100cc）



## ⑤ メイプロテインZn（褥瘡や筋肉量アップ目的の強い味方！）

「メイプロテインZn」には1包に「**たんぱく質10g、Zn7mg、Fe7mg、Ca155mg**」が含まれています。経管栄養で「褥瘡が出来たから栄養量をアップさせたいけど、

**逆流のリスクがあるから注入量を増やせない…」「経口摂取10割出来ている**

**けど、リハビリ量・活動量のアップで体重が落ちている。だけど、今以上の**

**食事を摂るのは難しい…」そんな時に役立つのがコレです。早期の創傷治癒や**

**リハビリを効率的に進めるためにも、当院では大活躍間違いなしです！**

使用方法：1日1包を料理・飲み物に混ぜる&経管投与（白湯200cc）

いかがでしたでしょうか？サンプルのご希望・ご意見などお待ちしております♪

